

文化学園大学で学び、希望の進路を実現した先輩たちのがんばった“就職活動(就活)ストーリー”をご紹介します。



山口 南さん

現代文化学部 国際ファッション文化学科 4年
プロデューサー・ジャーナリストコース
青森県立青森東高等学校出身

内定企業:株式会社ノバレーゼ 職種:総合職

事業内容:ブライダル・レストラン業

文化学園大学を志望した理由

母が関東出身なので小さい頃から東京に来る機会が多く、いろいろな刺激を受けてファッションに興味をもつようになり、高校時代にはウエディングプランナーの仕事に憧れをもっていました。大学で専門的にファッションを学ぶか、専門学校でウエディングプランナーを目指すか、二つの選択肢を考えましたが、服飾を学びウエディングドレスの構造や作ることも理解し、その上で提案力のあるウエディングプランナーを目指そうと考えたため大学を選択しました。そういう意味で文化学園大学の国際ファッション文化学科は私にピッタリの学科でした。また高校に服飾専門の先生がおり、ファッションを勉強したいなら、徹底的に学んで欲しいからと専門性の高い文化学園大学を薦められ、背中を押してもらったような気がします。

アルバイトは私流のインターンシップ

ブライダル関連の仕事を実際に経験してみたいと思い、2年の秋からアルバイトを始めました。南青山の小さいレストランウエディングでの仕事ですが、最初から大規模な会場に行くとは全体の仕事が見えないと思い、あえて小規模な会場にしました。いろいろな仕事を任せてもらえ全体像がしっかりと見え、ブライダルの仕事をよく理解することができました。就職活動に入る前にウエディングプランナーの仕事を経験することで将来絶対にやりたい仕事だと確信できた貴重な経験でした。3年になるとファッションショーや授業が忙しくなりますが、効率的に時間を使うことを心がけました。アルバイトをして本当によかったと思います。

就職活動に役立った文化学園大学の学び

今から思えば就職活動に対する知識がほとんど無かった私ですが、大学の就職講座でエントリーシートの作成や添削指導で、基礎的な事を身につけることができました。しかし選考を通過するエントリーシートを作成するためには、基本の上にかに自分らしさを表現することが重要かということにも気づきました。就職講座で基礎からしっかり学んだことや姉からのアドバイスもあり、自分らしいエントリーシートを作ることが出来るようになったと思います。大学の授業では洋服をつくるファッション造形の授業が一番好きですが、中でも一枚の白い布から、自分で染色をして花をつくる「アートフラワー」の作品が、面接の自己アピールにすごく役立ちました。ブライダルには花が欠かせないものですし、大学で学んだことをアピールするのにとても有効だったと思います。第一志望であった(株)ノバレーゼの方に面接で、ブライダルにはファッションセンスが求められていると言われました。内定の決め手の一つになったのかもしれない。

高校生のみなさんへ「遊んで終わらない大学」

いま私が文化学園大学に感じていることは、一言でいえば「遊んで終わらない大学」ということです。入学前はなんとなく大学時代を、勉強より大学生活の方を楽しむのかなと考えていました。文化学園大学に入学して、こんなにいろいろな勉強や経験ができる充実した大学生活になるとは思っていませんでした。文化学園大学には、遊びより大切な充実した時間が過ごせる勉強や経験ができる環境がたくさんあります。将来を見据えて、自分のやりたいことをよく考えて大学を選んでください。